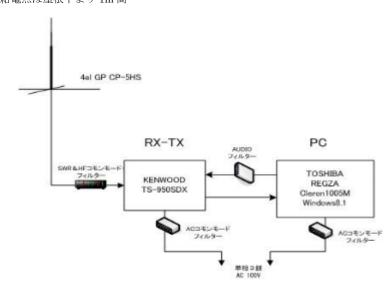
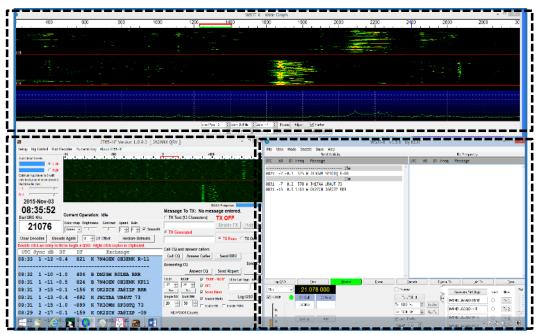
第1章 観測装置構成図



観測使用アンテナ 4el GP 給電点は屋根下より 1m 高



2種類のソフトウェアの「鳴き合わせ」測定時のディスプレー画面



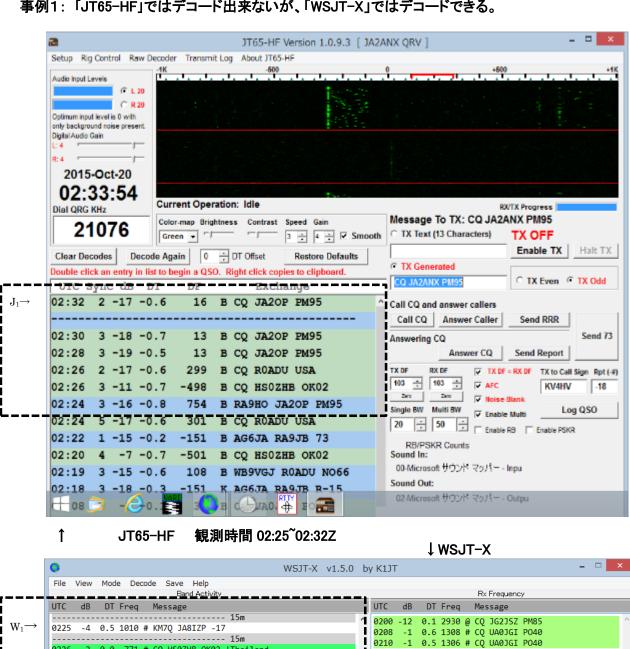
画面左側が JT65-HF

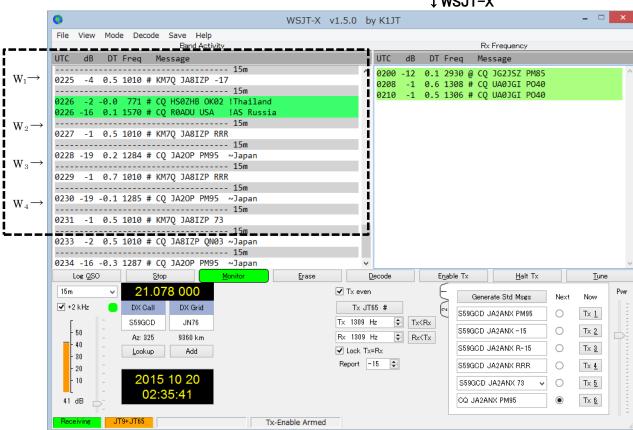
画面右側が WSJT-X

上部 WF は WS.JT-X 付属 ZL1FZ 画面

- ・使用 PC 東芝 REGZA PD513 Cleron1005M 1.90GHz 64bit×64ベースプロセッサ Win8.1 Microsoft サウンドマッパー Input/Output(内蔵)
- 使用ソフトウェア
 - •JT65—HF; Version 1.0.9.3 https://sourceforge.net/projects/jt65-hf/
 - •WSJT-X; 1.5.0 http://www.physics.princeton.edu/pulsar/K1JT/wsjtx-doc/wsjtx-main-1.5.0.html
 - •WSJT;v1. 5.0 r5512 http://physics.princeton.edu/pulsar/k1jt/wsjt.html
- <u>(補) WSJT-X は、WSJT-X v1.6.0</u> が 2015/12/10 一般公開されている。この、『User Guide』によれば「decode」部分の機能改良は謳われていない。よって抽出データの統一性・継続性の意味から、本報告では decode 技法の参考資料として記載している。

事例1:「JT65-HF」ではデコード出来ないが、「WSJT-X」ではデコードできる。







JT65-HF (decode はリート ソロモン技術) 観測時間: 02:25~02:33Z (図の点線枠内)

 $J_1 \rightarrow 02:32 \quad [2 -17 -0.6 \ 16 \ B \ CQ \ JA2OP \ PM95]$

(<u>※注</u>この頁以降、[TEXT]部分の記載を省略する) (JT65-HFでは "Exchange"、WSJTXでは "Message" と表記されている)

下画面 WSJT-X では、この J_1 である JA2OP 局の CQ が受信(decode)されていない。 反対にこの JT65-HF 画面では、下図の $W_1\rightarrow W_2\rightarrow W_3\rightarrow W_4$ が受信(decode)されていない! これは、どうしたことか?

確かに、JT65-HF は、開発者の K1JT 作成の WSJT からライセンシー3で同じ技法4をつかっている。主に HF 帯での簡便な操作使用法が承け、世界に広まった普及版と聞いている。 下図の $W_1 \rightarrow W_2 \rightarrow W_3 \rightarrow W_4$ が受信できたのに、この JT65-HF は何故 受信できないか? 反対に J_1 のみが浮かんでいる? 電波観測調査用にはどちらのソフトを使うべきか・・・が命題となる。

DXing にとっては、今どこと QSO しているか、いつ「73」で終わるか!が分かれば、各局の JT65 交信シーケンス5の進行状況を見極めることができ、約4分間持続すれば QSO に有用なる電波反射となる。



WSJT-X (decode は「Fast Mode」を使用)

観測抽出時間帯: 02:24~02:31Z (図の点線枠内)

 $W_1 \rightarrow 02:25 \quad [-4 \ 0.5 \ 1010 \ \text{# KM7Q JA8IZP -17}]$

 $W_2 \rightarrow 02:27 \quad [-1\ 0.5\ 1010\ \#\ KM7Q\ JA8IZP\ RRR\]$

W₃→ 02:29 [-1 0.7 1010 # KM7Q JA8IZP RRR] (02:27 W₂の再送)

 $W_4 \rightarrow 02:31 \quad [-1\ 0.5\ 1010\ \#\ KM7Q\ JA8IZP\ 73]$

左の画面で、JA8IZP 局の $W_1 \rightarrow W_2 \rightarrow W_3 \rightarrow W_4$ の履歴は、その相手局 KM7Q 局との QSO であり、 DXer にとって重要な判断材料になる。また珍局ならば、皆が同じ条件で受信できるので「満を侍して多数局が狙いを定めている」であろう。この様に連続するデコードは重要な進捗監視手段の礎である。

<補足>; 北海道地区の JA8 局との KM7Q 局が-17db であれば「北米ルート」は、他の地区より早く開けることが分かる画面である。交信進捗状況は JA8IZP 局が KM7Q 局と QSO し、R0ADU 局が「CQ USA」を出し同様に HS0ZHB 局も早い時間であるので、東南アジア地区と北米地域奥を狙っている、「北米ルート」帯である。

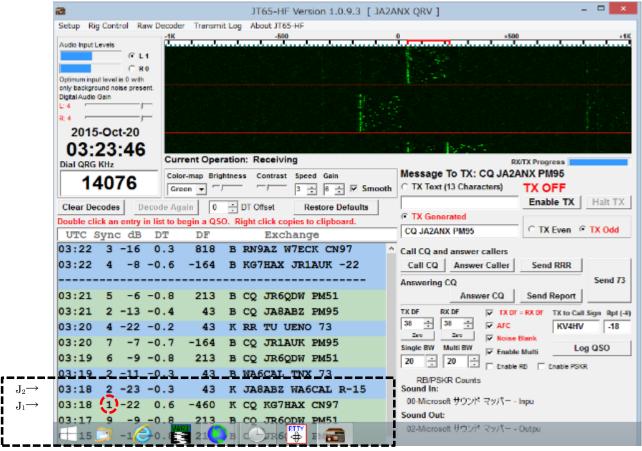
よって TEXT 表示にある様なデコードが出来るかどうかが、観測対象の母数となる。

 $^{^{3}\,}$ Original code for JT65-HF is licensed under the GPL 2.0 license

⁴ 誤り訂正を目的とした FCS 方式の RS;リードソロモンの符号化によるパリティーパケットを付加、及びデータ欠落防止のための符号入れ替え(インターリビング)対雑音耐性のためのグレー符号化された技法

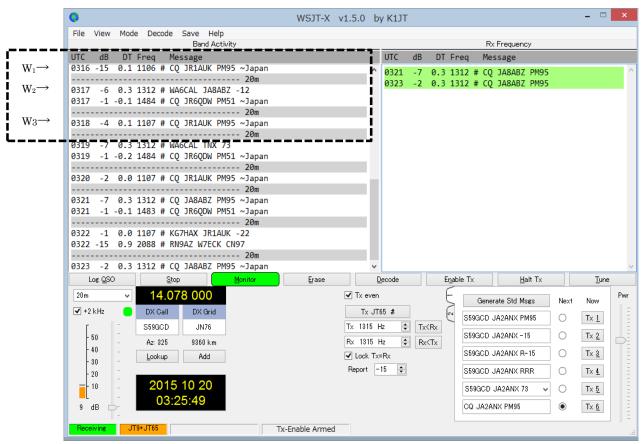
⁵ http://www.qsl.net/ja7ude/wsjt/WSJT-X.1.1aJP.pdf「QSO の手順」

事例2:2015/10/20 03:18 に置ける「JT65-HF」と「WSJT-X」のデコード差を比較する。



↑ JT65-HF 注 赤丸印は Sync 回数表示

↓ WSJT-X



03:16~03:22 の7分間を通した観測結果

注目点

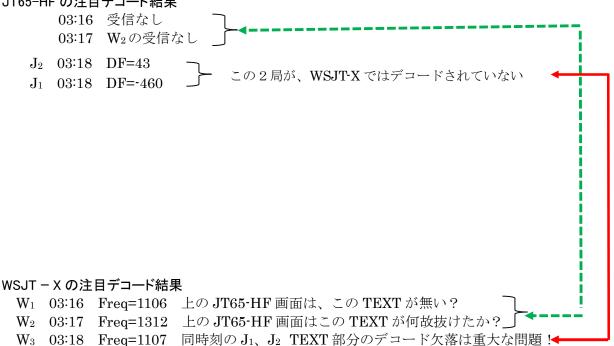
同一時間 03:18 における結果 J_1 がアラスカ局、 J_2 が米国の 2 局デコードであるが、下図 WSJT-X の W_3 は JR1AUK 局のみのデコードである。

この様に<u>同じ時間帯で同じ ANT から受信した電波であるのに係わらず</u>、2つのソフトを同時に使うと同じデコード結果もあり、また、歯抜けのデコードもある。デコード過程で歯抜けは DX 局 New One 狙いの我々には堪えられないのだ!

何故、同じANTを使い同じ送受信機を使って同時刻受信でこの差がでるのか? 電波観測を同緯度同経度で複数観測者が集まってデータ収集や電離層生成過程を観測するに、受信仕 様が統一されないと「烏合の衆」になる。

JT65-HF の注目デコード結果

両画面の TEXT を比較してみると



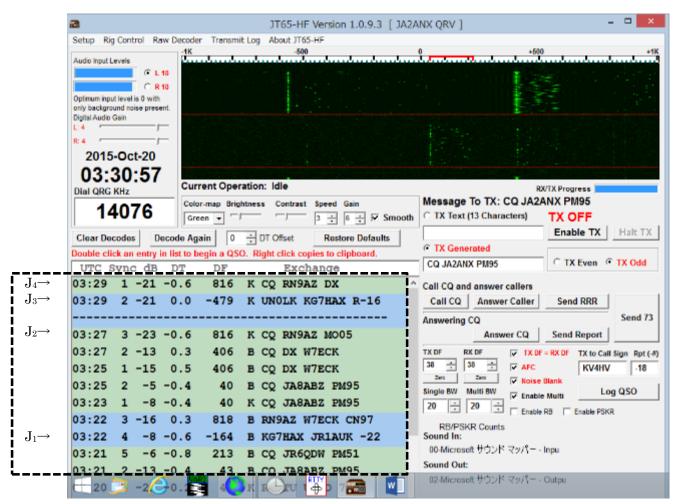
<注目点:画面 JT65-HF の J₁→「Sync」の表示 🚺 印>

この SYNC とは、1 シーケンスで目的信号に同期した回数のことである。デフォルトの SYNC=1 設定のままだと、1 シーケンスで 1 回以上同期した信号でないと「WSJT」がデコードしない。しかし、SYNC=0 に設定することで、1 回も同期しない信号でもデコードする。実際 S/N-30dB 前後の信号は、1 回も同期しない事が多いので、SYNC=0 に設定することで、デコード可能となる。SYNC=-1 の設定も有効なようだ。

・・・出典『FB News』誌 2013 年 6 月号より抜粋

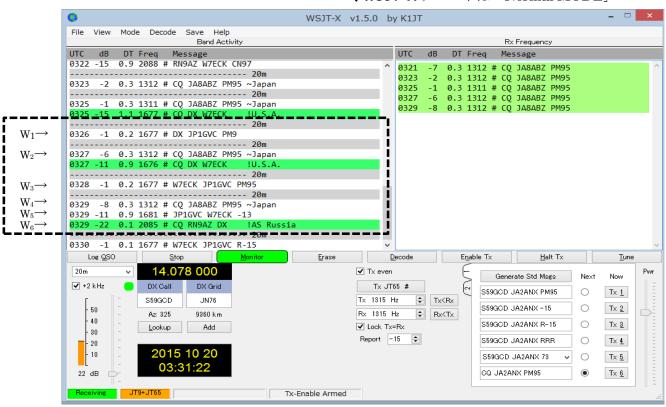
観測結果に大きな差異があると思われるが、WSJTXには「Sync」設定ボタンは無くなっているので、設計基準か理念を作者に問い合わせの要がある。初期の WSJT1.5.0 r 5512 版には存在する。本観測は[TEXT]部分の確実性を担保するため Sync = 1 に設定している。Sync 値の意味は「閾値」と考えてください。(Sync 値設定は JT65 運用の極義 1) (実際の JT65 受信電波での統計的分析によるのが最良であるが HF 帯運用での最適値は見当たらない)

事例3:2015/10/20 03:22~03:29 時間帯でみたデコードの可、不可



↑ JT65-HF は、リート ソロモン方式

↓WSJT-X デコードは「Normal MODE」



使用ソフトウェアによるデコード差が歴然!

上下の両画面の $03:22\sim03:29$ を良く眺めて頂くと、同じ受信電波なのにJT65-HF(上図画面)とWSJT-X(下図画面)で、相違に気づく。

JT65-HFでは $J_1\sim J_4$ が受信できているに比し、WSJT-Xでは $W_1\sim W_5$ が独自に受信できている。JT65-HFで 03:24、03:26、03:28 がデコードされていない。これは致命的である。

JT65-HFで注目のデコード

- J₄ 03:29 DF=816
- J_3 03:29 DF=-479 何故、同時刻の W_4 W_5 がデコードされなかったか?
- J₂ 03:27 DF=816
- J_1 03:22 DF=-164

(※注:03:26 両ソフト共デュード記録がされていない、これは送信操作があれば WSJT-X で MyCall の自動表示あるはずであり原因不明である。観測には、自動 Log 記録及び解析ソフトはオフライン運用が賢明だろう)

WSJT-X で注目のデコード

WSJT-X は、JT65-HF でデコード出来なかったが $W_1 \sim W_5$ がデコードされている。

W₁ 03:26 Freq=1677

 W_2 03:27 Freq =1312

 W_3 03:28 Freq =1677

 W_4 03:29 Freq =1312

W₅ 03:29 Freq =1682 ├ 何故、同時刻の J₃がデコードされなかったか?←

 $W_6 = 03:29 \quad Freq = 2085$

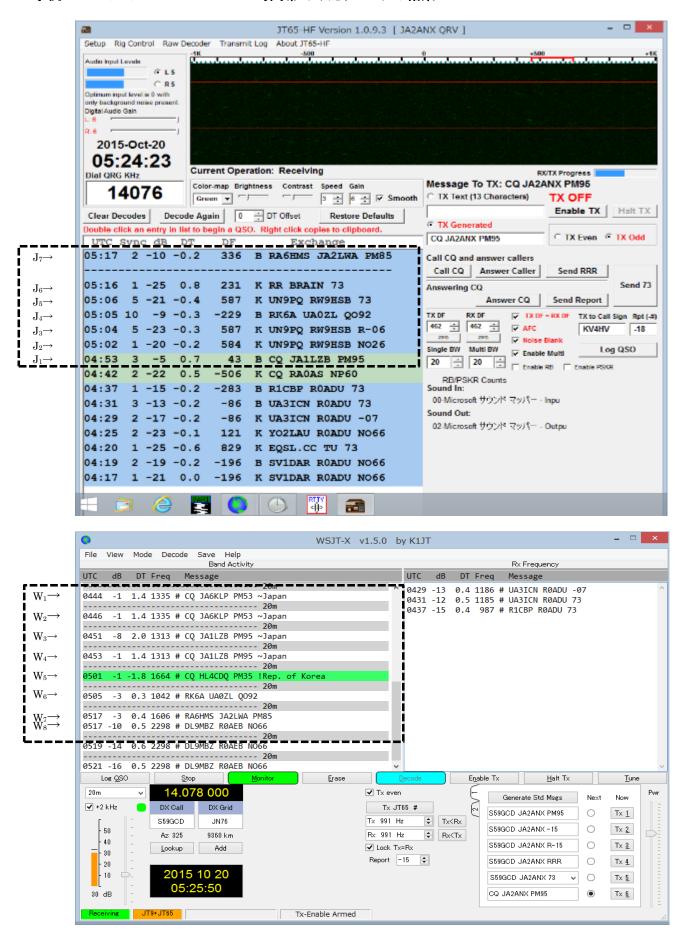
特に 03:29 に注目ください! 共にデコード可は J_4 と W_6 のみである。

驚くことに JP1GVC 局が W7ECK 局を CQ call に答える W_5 がデコードされたのに比し、JT65-HF では KG7HAX 局の SigReport 交換がデコードされている。この症状は QSO 交信にあたって致命的 事柄である、1 本の同じ ANT から入力された同じ受信信号が入力されているので解明の要がある6。

⁶ このような欠如が内在したままでは JT65 利用者は所与のものとしてソフトウエアを使い続ける危険性がある。解明を急ぎソフトに要因があるとすれば、微弱電波に期待する諸氏の DXing 活動に致命傷となる。

⁽補) 本観測用 PC 能力は、WSJT-X JT65Mode のみ受信で、最大 11 局の同時 decode の能力を示している。

事例4:2015/10/20 004:42~05:21 時間帯でみたデコードの結果



デコード技術差が歴然!とある。

EU ルートや北米ルートが開けると、バンド中心近傍はとても混んで QRM ならぬデジタル信号の強さのみでぶつかり合い電波が重層されて、共にデコードされない事が多い。 また珍局はスプリット運用でないと付近周波数は信号だらけで帰線が真っ黄色になる。

JT65-HFで注目のデコード

J_7	05:17	DF=336	WSJT-X では W ₈
J_6	05:16	DF=231	何故か WSJT-X では decode されていない?
J_5	05:06	DF=587	何故か WSJT-X では decode されていない?
J_4	05:05	DF=-229	WSJT-X では W ₆
\mathbf{J}_3	05:04	DF=587	何故か WSJT-X では decode されていない?
\mathbf{J}_2	05;02	DF=584	何故か WSJT-X では decode されていない?
\mathbf{J}_1	04:53	DF=43	WSJT-X では W ₄

注1: JT65-HFの受信は、SH や 13 桁送信の decode は JT65=HF が勝っている。

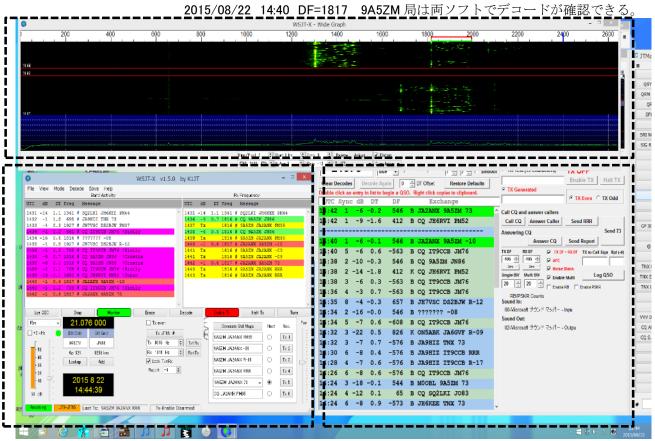
WSJT-X で注目のデコード

```
W<sub>1</sub> 04:44 Freq=1335 JT65-HFではdecode されていない; JA6-JA2 はスキャッターか? W<sub>2</sub> 04:46 Freq=1335 JT65-HFではdecode されていない; JA6-JA2 はスキャッターか? W<sub>3</sub> 04:51 Freq=1313 JT65-HFでは、J<sub>1</sub> W<sub>4</sub> 04:53 Freq=1664 JT65-HFではdecode されていない: F2層? W<sub>5</sub> 05:01 Freq=1606 JT65-HFではdecode されていない。 W<sub>6</sub> 05:05 Freq=1042 JT65-HFでは、J<sub>4</sub> W<sub>7</sub> 05:17 Freq=1606 JT65-HFでは、J<sub>7</sub> W<sub>8</sub> 05:17 Freq=2298 ※注3
```

注2:この事例は両ソフトの decode 成否が入り込んでソフトの特徴が鮮明に出ている!電波受信波の毀損 状態がそれぞれの成否を分けているのでないか、両WF波形でより詳細な比較観測が必要である。

注3: W₈ 05:17 Freq=2298 は観測値より削除した。(JT65·HF は 14.076 を中心に \pm 1 KH z、WSJT-X は 14.076 より·1KHz から+2KHZ とし、上部域を JT9 誘導域としている、但し両端の特性が下がるのでスキャン周波数を最左端スタートが 100KHz か 200KH z の選択を可能としている。これはバンドがオープンし中心部域が混んで互いに QRM でデュード困難時に、潰し合いを回避して JT65 に慣れた OM は、バンドの端で呼び出す術が運用効率面で DXing の「極義の一つ」である。バンド両端は重視して果敢に珍局と QSO されている。

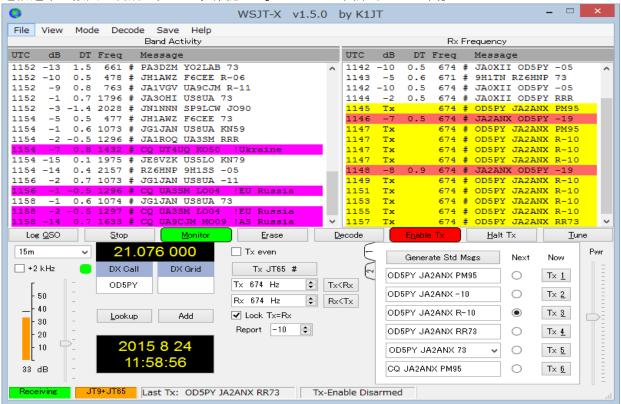
事例5: WF 画面で見る同時受信スタイル 「泣き合わせ運用」



↑ Display 1 台で同時表示運用

(この画面右隅は JT-Alert/JT-Macs が稼働中)

送信途中で数回の瞬断が発生し、確認「R」が decode 出来なかった例。



補:この交信は 11:47 Freq=674 で decode 時間の「筒抜け」が発生、TX3 で訂正送信を行っている。先 方は再度受信レポートを送信して 2 度目の受信 decode は成功しているが、次のシーケンスで F.O.だ。

教科書的交信シーケンスの完了は、 $4\sim5$ 分の Condex 維持を要する。HF 帯においては Condex ダウン時は難しい局面が多発する。同時泣き合わせでも救えない面が生じる。 観測用の PC 画面は 1 ディスプレーであり、画面左側に WSJT-X、画面右側に JT65-HF を置いている。

(本篇観測のようにそれぞれデコードの特徴(欠点?)を生かして、(珍局や超微弱電波、UA0 地区の強力 近隣電波や特定目的局の電波を回避しながらまた JT9 電波も同時監視しながら時に JT65-HF の Multi BW や Décode Again を使って約 12 秒間でこれら全体操作を眺つつデコードされるのを待つのは、飛行機 コックピットの運転に近い)上部の WF: WSJT-X 付属の画面を使用している。

強力電波はノッチする回路があれば、電波生成過程観測にまた実運用が益すると感じている。 14:40 から始まる 9A5ZM 局 (Croatia) は、この両画面を同時に使ったお陰の結果である。EU 局の 猛攻撃で QRMM の混信に中で、微弱な電波の QSO に歓喜を禁じえなかった。

RTTYやPSK運用では、「化字」対応で泣かされるが(究極のパターン認識であり: AI 技術活躍できそうであるが、太陽黒点の端境期で電波が弱く、ふらつきが当たり前の Condex が到来している現状では JT65 技法に勝るものは見当たらない)人間の頭の中の連想やパターン認識はスゴイ能力を持つが、時として思い込みが勝つことがある。

デジタルはデコード出来れば第3者に確かな証拠となる。



9A5ZM-JA2ANX 局間;9,108Km

<OD5RY 局の例>

数回の R-10 を送ったが、OD5RY 局からの確認信号は?となってしまった。 時に 2015/08/24 11:58 (開始は 11:46 である) 1 局の交信に上画面の通り ! 12 分を要した。 これでは、今の HF 帯の DX オープン時間が短いので、肝心のシーケンスに至ってデコード不可が出ると実用的 DXing とは呼べない惨憺たる状況となる。

(Condex の下降局面ならば、涙を飲んで「自然現象と仲良く付き合いましょう7」か!)

Band Condition を読み取るには、今、実際の交信が行われている様子を眺望するのが良い。その点、JT65 はバンド幅全域に渡ってデコードされ数 10 分間の時系列通信情報が表示されるので、他の通信手法より格段に把握しやすい。「お空」の今の状態がどんなポジションにあるかの Condition 俯瞰図8をベースにしておくと判断を誤らない。

^{7 11:46「}突きぬけ」や相手からの予想外の返信(運用ソフトが異なった場合、相手局が EME 通信も経験豊富が強すぎるパターン等)突発事象に対応するに「Decode 時間+返事の解釈+ボタン操作等を約 10 数秒で終えねばならない。また再送途中段階で電波伝搬上数回の瞬断のある局面に遭遇すれば当然解読表示されない。HF 帯の「お空」は瞬時動態の電離層反射現象を使っているのだ、その分「相手局に迷惑かけた、お空を占有もした。早く諦めバンドをクリーンにしよう!。(JT65 運用の極義 2)

⁸ 拙筆『絵でみる JT65·HF への旅路』「Condition 状況俯瞰図」別紙 1: <参考資料①>本篇 53 頁参照